

住民といろんな事業をつくる！



四季文化館企画実行委員
サーカスプロジェクトメンバー
やまぎき はるお
山崎 晴生さん

「高校時代に鍛えられたの精神力と根性があればどんなことでも耐えられる」と笑顔で話す山崎さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ
No.147

スズムシやカマドコオロギの鳴き声に秋の訪れを知らせるように鳴きはじめます。9月の中旬頃の十五夜は、1年の中でもっとも美しいとされているので中秋の名月と言われるそうです。秋のお彼岸や敬老の日もあり、感謝や敬う気持ちも大切にしたいですね。今回は四季文化館企画実行委員とサーカスプロジェクト委員を務める小美玉市小川地区にお住いの山崎晴生さんを取材します。

山崎さんに企画実行委員になつたきっかけを聞いてみると、「実行委員の中村さんと山口館長に誘われました。結構、行政関係の施設を応援しているの、その関係で会議に出ることも多いです。私が出ている会議だと書類ができて、異議ないですか？はい！しゃんしゃんで終わることが多いですが、みののの企画実行委員会は職員さんと一緒に時間をかけて話し合い、住民といろいろな事業を創り上げていくところが素晴らしいと思って参加していますね。みののの職員さんは今度は何をやるのかな？と考えている熱量がたくさんあるなと伝わってきましたね」と話してくれました。

「母がピアノの教室をしているので、年一回はみののの発表会をさせてもらっています。ここには良いピアノがあるので、子ども達に触れさせたいという想いから利用させてもらっています。みのののくれば、いろいろな使い方ができる誇れる所だと思えます。他の小美玉の施設だと自宅から小川文化センターアピオスが近いので、こ

の前もお笑いを見せてもらいましたが楽しかったです。改めて小美玉っていいなと思いました」と山崎さん。

山崎さんは、「体育会系なので・・・」と話してくれたので「なにかスポーツを・・・」と聞いてみると、「中学の時はバスケットしていたのですが、当時スクールウォーズが流行っていました・・・2番目の姉が高校の時にラグビーのマネージャーというのもあって、高校のラグビー部の顧問の先生の目に留まり入学、入部しました。死ぬほどウエイトレトレーニングもやりましたし、走り込みもやっていました。そこで精神を鍛えられ、41年間生きてきた中で一番きつかった3年間でした。気合と根性がつきました」と話してくれました。

とても穏やかにお話をされる山崎さんは、「進路を迷っていた時に、一番上の姉が介護の専門学校に行っていて、面白おかしく話をしてくるので興味はもっていました。高校の先生に進路を相談したら『これからは介護が必要』と言わ

れ介護の仕事に就きました。やりがいのある仕事ですね。20歳で専門学校を出て、24歳で独立して26歳で地元で施設を建てました。たくさんの人に助けられながら自分のやりたいと思うことが実現しました。企画実行委員をやっていて、人の話を聞いてためになることが多いですね。運営とか自分の仕事にも繋がっているなと思います。地域にも貢献しながら、入所している方たちにも貢献したいと思います。これからはできるだけ在宅で生活できるよう、定期的にイベントやカルチャーを企画し、引きこもらないでどんどん外に出られるような社会に繋がっていきたいですね」と笑顔で話してくれました。

(藤田 佐知子)

企画実行委員

四季文化館(みののの)の企画・運営の根幹を成している組織。月一回程度会議を開催して運営の指針を決めている。公身性なので興味がある方はご連絡ください。
四季文化館(みののの) (0296-48-446)